

VISION 03

食の恵みを安心して享受できる社会

目指す姿

おいしく安全で栄養豊富な食料を、世界中いつでもどこでも。
あらゆる人が、もっと健やかに生活できること。

VISION03の社会を実現するために貢献できる主な製品・サービス

食のバリューチェーン

営農計画をはじめ、土づくり、育苗、移植、収穫から販路の獲得までをつなぐ、食のバリューチェーンをトータルでサポートし、農業を魅力ある産業“食農産業”へと発展させていきます。



関連する主な SDGs



VISION03に関連し解決すべき社会課題

グローバルイシュー

人口問題

2050年に世界の人口が

97億人 超

※United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (2017).
World Population Prospects: The 2017 Revision. (2017)

食料問題

食料供給が2050年に

1.7倍 必要 (2010年比)

※農林水産省「2050年における世界の食料需給見通し」(2019)

個別テーマ

- 大規模農業への対応
- 担い手農家の効率化による生産性向上 **海外**
- 災害や天候不順による農産物への影響
- 後継者不足による離農 **国内**

事業活動を通じた貢献

ヤンマーアグリ株式会社

「スマートアシスト」により
農業機械の稼働状況を把握し
効率的な農場管理で生産性を向上

関連する
主なSDGs



顧客の課題

東南アジアにおいて主要農業国となるタイは、米の輸出量が世界有数の国であり、今後もアジアを中心とした需要増により増産が期待されています。しかし、家族経営による兼業農家が多いタイでは、農家と作業者の円滑なコミュニケーションや、効率的な農場管理に課題があり、ICT（情報通信技術）の活用や機械化による生産性向上が求められています。

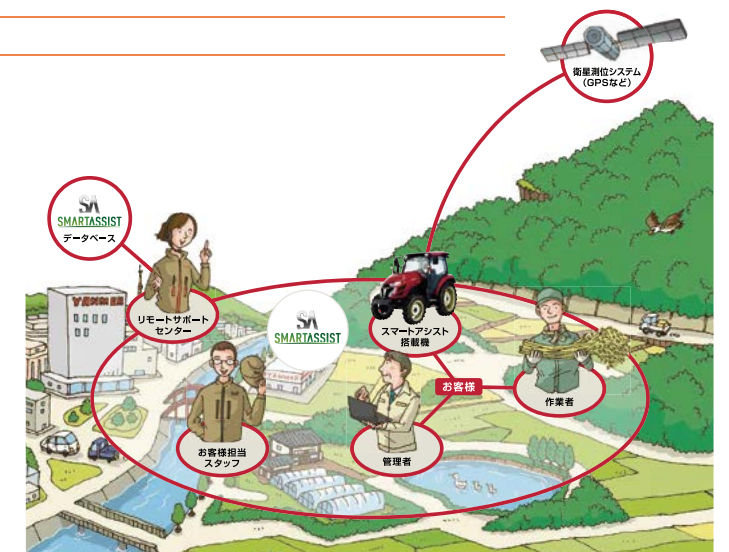
ソリューション

ヤンマーアグリは、2017年からIoTを活用した「スマートアシスト」による機械管理および、ほ場管理をタイの顧客に提案しています。このシステムは、2013年に日本で販売を開始した「スマートアシスト」のサービスをタイ向けに見直したもので、GPSアンテナおよび通信端末を搭載した農業機械とヤンマーサーバーをネットワークで結び、スマートフォンやPCで一括管理できる仕組みです。

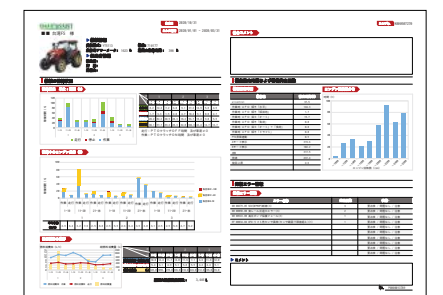
24時間365日、農業機械の稼働状況を遠隔で見守ることで、故障や盗難などのトラブルを未然に防ぐとともに、パーツ交換の適切なタイミングなどを通知します。ほ場登録による面積自動測定機能を有し、作業の進捗状況は地図上でリアルタイムに確認することができると同時に、農業機械の作業軌跡は自動的に記録されます。

コントラクターが多いタイ市場では、オーナー自らがほ場に出向くことがない中、「スマートアシスト」によって離れた場所からでも作業者の作業状況をリアルタイムに確認できます。これにより、作業者に対する指示を適切なタイミングで出すことができ、作業効率が向上します。

また、その日に作業した面積や時間も正確に知ることができるため、作業者への賃金支払いも公正に行うことができます。さらに、農業機械に異常がないかを診断しメンテナンス部品を事前に調達できることによって、故障によるダウンタイムにともなう収入減少の防止も大きなメリットになっています。



スマートアシストの仕組み



農業機械の稼働状況を蓄積したレポート

提供価値

現在、「スマートアシスト」の契約数は、タイでは約1,000台(トラクター450台、コンバイン550台)、東南アジアでは約10,000台(トラクター2,000台、コンバイン8,000台)の実績になっていますが、まだ普及活動の段階です。そのため、農家の生産性向上を図る指標としては、Webサイト利用率や、ほ場登録数等で管理していますが、今後は機械稼働や整備管理を評価する指標設定を行う予定です。また、VTトラクターやYHコンバインのグローバル機に標準装着を進め、西アジア、中南米、アフリカなどの新規市場への普及展開を図っていきます。

持続可能なマガキの養殖技術構築と 地域ブランド「くにさきOYSTER」の創出で 「獲る漁業から」「育てる漁業」への転換を支援

関連する
主なSDGs



顧客の課題

大分県国東市では、近年、太刀魚を中心とする漁業において漁獲量が減少し、漁業就業者数の減少が課題となっていました。また、世界全体での魚介類消費量が過去50年で約5倍※になるなど世界的な水産物需要が増加し、海の生態系保全や水質の保全・浄化など持続可能な海洋環境の実現も大きな課題となっています。

※ 水産庁「平成28年度水産白書」(2017)
https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h28_h/trend/1/t1_1_1_1.html

ソリューション

ヤンマーグループは、遊休地となっていた養殖場の有効活用をきっかけに、国東市、地元の漁業協同組合との協働により、持続可能なマガキの養殖技術構築に取り組むとともに、地域ブランド「くにさきOYSTER」を創出し、漁業就業者の「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換を促すことで、地域における次世代漁業の発展に貢献しています。

当社グループは、これまで水産関連機器の開発・販売を手掛ける一方、10年ほど前からアサリやカキなど二枚貝の人工種苗生産技術や中間育成技術の開発に取り組んできました。今回、国東周辺の海域にあったマガキの養殖方法を模索するなか、陸上で育てた稚貝を専用のカゴに入れ、付着物を極力付かせないようにする「シングルシード式」を採用しました。また、当社独自の生産技術「タイド&ディープ方式」により、マガキの生育状況に応じて干潟と海中で効率よく育てることで、良質なマガキの生育を実現。養殖海域への環境負荷も少ないため、持続可能な養殖業が可能となります。

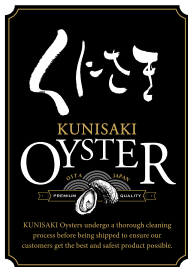
水揚げ後は、独自の衛生管理プログラムによりノロウイルス等の危険を排除した安全管理も徹底して行っています。国内の著名なシェフからの評価と協力を得て、生食マガキの魅力を最大限に引き出す料理を提供することで安全で食味のよい「くにさきOYSTER」を国内外に発信しています。

提供価値

当社グループは、日本各地の地方自治体や地方団体と協働し、活力ある地域の発展や社会課題を解決する製品・サービスを提供しています。なかでも、「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換支援として取り組む二枚貝の養殖支援事業は、低コストかつ安定生産による漁業収益の改善や、養殖海域への環境負荷が少ない生産方式による海の生態系保全に貢献することができます。これまで、宮城県石巻市でのアサリ資源復活に向けた実証試験や、愛媛県宇和島市でのアサリ事業など、国東市以外にも全国各地で取り組みの輪を広げています。



くにさきOYSTER



生育場所は成長時期によって干潟から海中に変更

2019年度実績

「くにさきOYSTERブランド」

取引先 約**200**店 販売数 約**97,000**個

CSR活動報告

地域社会

次世代育成活動

子ども絵画展

ヤンマーは、子どもたちがふるさとの素晴らしさを発見することを通じて、水と土への関心を高めてもらうことを目的に、全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）、都道府県水土里ネット（都道府県土地改良事業団体連合会）が主催する「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展に協賛しています。

第20回（2019年）には全国から5,224点の応募があり、農林水産大臣賞以下入賞24点、入選129点が決まり、ヤンマー賞には濱口昂大さん（兵庫県洲本市大野小学校1年）『田んぼに水が入ったよ。』を選出しました。



兵庫県洲本市大野小学校1年生の
濱口昂大さんの作品
「田んぼに水が入ったよ。」

ヤンマー学生懸賞論文・作文

ヤンマーは、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について自由な発想から論じてもらうことを趣旨として、1990年から「ヤンマー学生懸賞論文・作文」の募集を行っています。

第30回となる2019年は、引き続き「「農業」を「食農産業」に発展させる」をテーマに、全国から論文48編、作文522編の応募がありました。論文の部の大賞は「途上国の農業発展を目指して～グローバル・フードバリューチェーンの観点から～」(金沢大学人間社会学域 経済学類2年・松村妙子さん)、作文の部の金賞には「肉用牛農家となるための責任と覚悟～生命ある産業動物を管理するということ～」(鹿児島県立農業大学校 畜産学部 畜産研究科1年・石山翔平さん)がそれぞれ選ばれました。

近年、農業を取り巻く環境が大きく変化する中、ヤンマーグループは持続可能な農業を目指し、農作物の生産からその先にある加工、流通などを含めた「食」に対するソリューション

の提供や、生産物の高付加価値化などに取り組んでいます。これからも、論文・作文の活動を通じて、次世代を担う皆さんと一緒にさまざまな農業・食料生産のあり方について考えていきます。



「ヤンマー学生懸賞論文・作文」の入選発表会（論文入賞者の皆さん）

社会貢献活動

「ヤンマーこだわりの野菜カレー」を 大阪府内の子ども食堂などに寄贈

ヤンマーホールディングスは、2020年6月に「お母さん業界新聞社」を通じて大阪府内の子ども食堂など7カ所の団体・店舗に「ヤンマーこだわりの野菜カレー」900食を寄贈しました。寄贈したカレーは、滋賀県にあるヤンマーミュージアムで提供しているもので、小さなお子さんにもおいしく食べていただけるよう甘口に仕上げしており、野菜の栄養も豊富に含まれています。

「お母さん業界新聞社」では、子育て中のお母さんを応援するさまざまな活動を行っています。新型コロナウイルスによる経済的影響を受けている家庭が多いなか、当社は食づくりに長く関わってきた企業として、家庭の食事を支えるお母さんとお子さんの楽しい食事を応援したいという想いでこの度の協力を行いました。



7カ所の団体・店舗に「ヤンマーこだわりの野菜カレー」を寄贈